平成27年度第3回社会教育委員会議会議録							
開催日	平成28年3月17日（木）			開会時間	10時00分		
会　場	市役所　6階602会議室			閉会時間	11時30分		
委員の出欠状況	伊藤　正志	欠	加藤　聡司	欠	石原　規子	出	
	石川　毅	出	川合　香代子	欠	又地　淳	欠	
	小田原紀慧子	欠	花岡　里恵子	出	久米　隼	出	
	鳥飼　八五良	出	伊藤　芳夫	出			
	○村山　喜三江	出	長田　真希	出			
	◎戸部　惠一	出	榎本　俊明	欠	◎議長　○副議長		
傍聴者	なし						
事務局	【教育委員会】 大久保教育長、上篠教育部長 【生涯学習課】 冨岡次長兼課長、亀井主幹兼課長補佐、細野統括主査、礒﨑主任 【スポーツ青少年課　】 亀井課長						
議　題	1　社会福祉法人和光市社会福祉協議会評議員の選出について 2　社会福祉法人和光市社会福祉協議会理事の選出について 3　和光市青少年問題協議会委員の選出について 4　南部地区社会教育関係委員・職員基礎研修会の報告及び意見交換						

1　開会

2　あいさつ

○大久保教育長

本日は第3回社会教育委員会議に、ご参加いただきありがとうございます。

市内の小中学校では一昨日中学校の卒業式が終わりました。そして来週の23日には小学校の卒業証書授与式が予定されております。平成27年度も大詰めになったのかなと思っているところです。

また、現在建設中の下新倉小学校ですが、天候の影響で外構が遅れ気味ですが、3月末には完成できる運びとなっております。4月2日に竣工式、内覧会（見学会）を計画しています。

さて、この3月の市議会の定例会において、公民館改革と事業分野に関する一般質問がございました。今の公民館が果たしている役割が本来の公民館設置の目的とどうなんだろうかというところが主題だと思っています。地域課題というものを取り上げた活動がなかなか難しい状況にあります。講座の硬直化という課題も当然あります。また、3館ある公民館それぞれの地域の抱えている課題の掘り下げができているのかどうか。このような課題を私も常々考えておりますので、これまでの中で改革を進めてきている訳ですけれども、まだまだ様々な面で課題が残っているなと思っております。

そういう観点から考えると、この社会教育委員会議の中においても、社会教育として大変重要な役割を果たしている公民館が、今、果たしてこれでいいのかということを指摘されているので、是非様々な角度から、また皆さんがそれぞれの団体の中で活動されている取組みを通し

て、忌憚のないご意見をいただきながら、公民館活動は社会教育の要ですので、そういったところにお知恵をいただければありがたいなと思っております。
　本日4つの議題がございますが、この議題で終わることなく、その他のところでご意見等いただければ大変ありがたく思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○事務局
　市民参加条例第12条第4項の規定による会議公開及び要点記録による会議録の公開について説明。

3　議題

⑴　社会福祉法人和光市社会福祉協議会評議員の選出について
　・長田　眞希　委員

⑵　社会福祉法人和光市社会福祉協議会理事の選出について
　・村山　喜三江　委員

⑶　和光市青少年問題協議会委員の選出について
　・戸部　惠一　委員

⑷　南部地区社会教育関係委員・職員基礎研修会の報告及び意見交換
　○事務局　細野より南部地区社会教育関係委員・職員基礎研修会の報告（資料参照）

　○石原委員より南部地区社会教育関係委員・職員基礎研修会の報告
　以下の3つからヒントを得ようと思った。
　人づくり・・・地域全体が持っている特質、資質、人材をもっと高めて、それを発掘して地域の活動に利用する。もっともっと地域のために活躍してもらえるとても若い高齢者の方を発掘し、もっと活発に地域のために動いてもらう。
　絆づくり・・・東日本大震災で絆づくりができていた地域は、復興が大変スムーズだった。普段から、地域の絆を作っていく、人と人との絆を作っているとコミュニティーが作れていく。その絆づくりで、「共助」（共に助け合う）という気持ちで、社会教育委員が絆づくりをしていく気持ちが大切である。孤立している子育て中のお母さん、高齢者を吸い上げてあげるきめ細やかな絆づくりが必要である。
　地域づくり・・・様々な地域に応じた活動を考えていく。

～意見交換～

○石川委員

日頃学校で仕事をしていく中で、みんなでアイディア・知恵を絞れば、違った形のものができるのかなと感じた。学校で地域の方々や生徒や保護者の方々とかかわっていく中で、学校がひとつの地域の核のようなものになって、もっと多くの人たちを繋げていくことができるはずなのに、具体的な行動として移せていないと感じることがある。また、一生懸命かかわっていく中で、学校教育の限界を感じる場面に出会うこともあるが、それは学校という組織の中だけで考えているからそのように感じるのだと思った。

大切なことは、つながりの中でもっと広い視野で物事を考えていかないと、人づくり・絆づくり・地域づくりは難しいと感じた。

○鳥飼委員

地域づくりとか絆づくりとか口で言うのは簡単だが、現実は難しい。

公民館の役員に地域の方々が少なくなってきていると思う。

○花岡委員

社会教育に期待される「人づくり・絆づくり・地域づくり」は、民生委員の目的と一緒である。民生委員では地域を母体に、地域でサロンを開いて、地域の人が楽しく過ごす場を作っている。

○伊藤委員

自治会連合会として、人と人との絆を強くすることを目的として取り組んできている。

今期、和光市第3次福祉事業計画にある地区社協設立について、花岡委員と一緒に丸山台中央地区という地域で設立に向けて取り組んでいる。

丸山台という急激に開発された地域なので、俗にいう隣組という組織がまったくできていないため、地域の人と人との絆を求める自治会に加入されない方が非常に多い。

地区社協の設立に関しても、理解をしてもらえなくて困っているが、自治会・婦人会・民生員・商工会で協力して地域ネットワークづくりに取り組んでいる。

○久米委員

社会教育に期待されることの「人づくり・絆づくり・地域づくり」の先に、「ふるさとづくり」というものがあると思っている。そこの地域が、今の子どもたちが将来「ふるさと」と思うかどうか、「ふるさと」と思えるような地域になるかどうかが、大きな社会教育の役割だと思う。

自分自身、地域やそこに暮らす人たちと深くかかわった所が「ふるさと」だと感じている。和光市も、将来、今の子どもたちが「ふるさと」と思ってもらえるような社会づくり・地域づくりをできたらいいと思う。

丸山台の子どもたちは、子どもたちの方から挨拶をしてくれることに最初、戸惑ってしまった。子どもは地域の大人の様子を見て育つと思うので、とてもいい雰囲気だと思っている。

○石原委員

子どもたちが夢を持って生き生きと暮らしていくには、大人たちが希望を持って元気に生きていくことが大切である。

○長田委員

わこう子育てネットワークでは「プレーパーク」という、子どもの外遊びの事業がある。普段であれば「危ない！」と言われる遊び、例えば、釘を打ったり、火を使ったり、穴を掘ったり等を大人が口を出さずに見守りながら子どもたちと一緒に遊ぶという事業である。

今年度和光市の事業として3回、樹林公園・児童センター・柿の木坂湧き水公園で行った。子どもと大人が一緒に活動する中で、子どもたちが大人と対等に話すことができるようになったり、自分たちで大人の行動を見て学習し遊びをスキルアップしたりすることができる。

自分たちの団体の繋がりだけだと活動にも限界があるので、社会教育委員会議で他の活動をしている方々と繋がっていくことで、さらに地域に根差した、たくさんの方が関われるような活動になっていったり、ネットワークが広がっていくというのはとても大事だと思った。

○村山副議長

ロードレースフェスティバルに大和中学校の生徒が10名、第二中学校の生徒が1名参加してくれた。当日は、朝早くから参加してくれ、会議もみんな出席してくれた。こういうところで、新たな絆が生まれるのだと感じた。

高齢者の方にも呼びかけ、グランドゴルフの講習会と大会を行ったが、高齢者の中にもまだまだ現役の方がたくさんいるので、活躍の場を作っていければいいと思う。

○戸部議長

昨年の12月に中央教育審議会で、新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働のあり方と今後の推進方策について答申が出された。

学校を地域学校協働本部として、地域の人々や団体でネットワークを作って、学校を支えていく。地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるという仕組みである。

大人が生き生きとしている社会が子どもにとって「ふるさと」になるのかと思った。

○教育長

本当に今日は素晴らしい話し合いができたと思う。

皆さんは日常的に、それぞれの母体で活動していて、そこで抱えている問題を、この会議で、それぞれの立場で意見交換することが社会教育委員の役割である。そういう観点から見たら、今日はとても素晴らしい会議であった。

和光市も市制45周年になり、人口も倍以上になった。この45年の歩みの中で発展してきたものと失ってきたものがある。その失ってきたものが何かという所が社会教育に一番関わってくる。

「ふるさと」意識を子どもたちに持たせるためには、保護者がそういう意識を持たなくてはいけない。保護者が地域とどう関わるのかというところを、この会議の場で、それぞれの立場で話し合いをしていただくことが大事である。

皆さんの活動している母体は、すべて和光市の行政に繋がっている。つまり、皆さんが発信することは、すべて和光市の行政に繋がっていく。

公民館が戦後、急速に造られてきたのは、国づくりをしていくためである。それぞれの地域で公民館を拠点にして、みんなで話し合って、この街をどうして行こうかと話し合うことが出来た。今は、地域のコミュニケーション能力が低下しているため、そういうことが出来なくなってきている。そのような中で、和光市に住んでいる方々をそれぞれの年齢を想定して、その年代に合った取組みと言うものを考えていきたい。

公民館というのは、地域に存在していて、それぞれの地域性が必ずある。その地域性をどのように拾い上げていくかということを考えていかないと課題は見えてこない。結集できていない新しい住民に、どういう風にこの和光を「ふるさと」として意識してもらい、地域の行事に関わってもらうかが課題である。

ある意味、社会教育委員のやりがいは、すごく幅広いし、ひとつ糸口を掴んだら、そこから何かを引き出せるのかなと思っているので、是非こういう話を活発にしていただき、事務局の方も皆さま方の意見を集約しながら、それぞれの施策に反映できるようにしていきたいと思っている。

6　その他

(1)会議録公開に関する今後のスケジュール等について

7　閉会